

01 カルナック神殿 Karnak Temple

エジプト、BC18C-BC12C、多柱室とパイロン
空隙の誕生:古王国時代のモニュメンタルな巨大マッサ(塊)。新王国時代の神殿建築では多柱室に空隙が発生。

02 ペルセポリス Persepolis

イラン、BC520-BC330、ダレイオス1世、クセルクセスI世、百柱殿

想像力の喚起:アレクサンドロス大王に破壊されたアケメネス朝ペルシアの帝都。その廃墟から想像力によって空間を再現。

03 パルテノン神殿 Parthenon

ギリシア、BC447-BC431、フェイディアス、イクティノス、カリクラテス、列柱

規範と補正:厳格な建築規範(オーダー:柱と梁の構成)。大胆かつ繊細な視覚補正(水平材のむくりや柱の内傾)。

04 ベルガモン Pergamon

トルコ、BC3C 中-BC2C、擁壁

山上の構築:海拔 355m の独立した山の上にテラスを連ねるように造営。ヘレニズム文化の頂点となる都市建築群。

05 ポン・デュ・ガール Pont du Gard

フランス、BC19 頃、アグリッパ、アーチ

基盤の整備:ニームに給水する 50km に及ぶ水路の途上にある水道橋。アーチが連なる壮大な構造と 1/4000 の厳密な勾配。

06 コロッセオ Colosseo

イタリア、70-80、ヴェスパシアヌス、ティトゥス、外壁アーチ

楕円の力学:スタディオンにおける競技者の直進運動。テアトルムにおける観衆の円形包囲。これらを両立させた楕円形の闘技場。

07 パンテオン Pantheon

イタリア、118-128、ハドリアヌス、ドーム

大空間の成立:ローマン・コンクリートによる直径 43.8m の大ドーム。今までにない大空間は社会の作動形態を変革。

08 ハドリアヌスの別荘 Villa Adriana

イタリア、118-138、ハドリアヌス、壁

記憶の蓄積:ローマ帝国の領地の巡行を続けたハドリアヌス帝。その建築・都市の記憶を蓄積した未曾有の空間アーカイヴ。

09 ディアナの家 Casa di Diana

イタリア、2C 中頃、外壁

高層の萌芽:店と住まいからなるローマ時代の長屋式住居。都市の人口増加にともなって高さ 30m を超えるまでに高層化。

10 東大寺南大門 Nandaimon Gate, Todaiji

日本、1199、俊乘房重源、大仏様構造

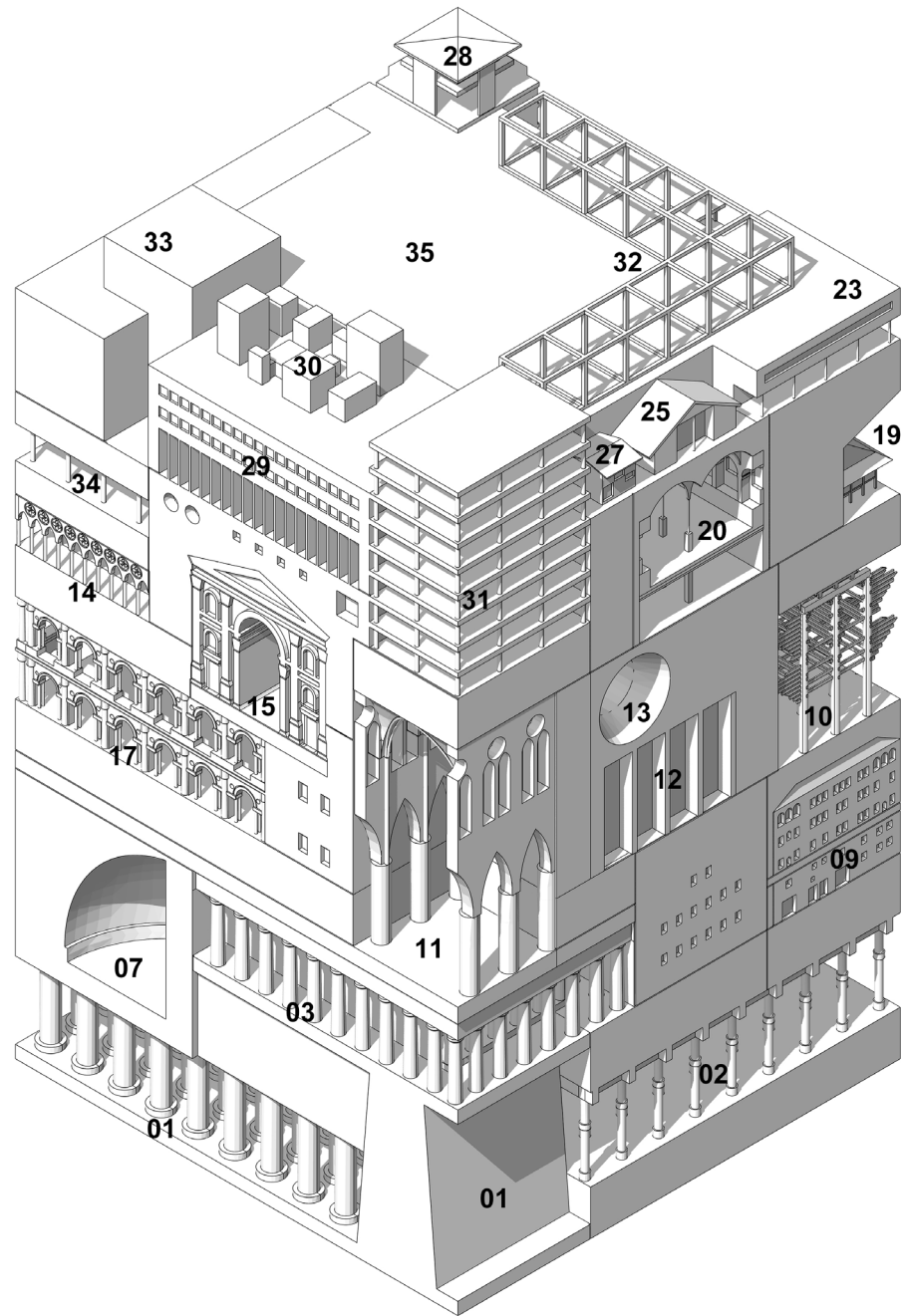
中世の先鋭:長大な柱と大量の貫による架構で上下同大の屋根を保持。架構や組物の細部を含めてラディカルな構造美を実現。

11 ランス大聖堂 Notre-Dame de Reims

フランス、1211-1311、ジャン・ドルベ、身廊

垂直の希求:身廊の幅 15m、天井高さ 38m

におよぶゴシックの大聖堂。トレーサリー



(採光部の狭間飾)によって明るく繊細に。

12 サント・シャペル Sainte Chapelle

フランス、1241/1242-48、袖壁

壁面の消失:外側に突出する控柱が主要構造。控柱のあいだは腰部を除き全面的に窓にして、明るく壮麗な内部空間を実現。

13 フィレンツェ大聖堂 Cattedrale di Santa Maria del Fiore イタリア、1296-1436、ジョヴァンニ・ディ・ラボ、フィリッポ・ブルネレスキ、ドラム開口部

技術の拡張:ディ・ラボが設計したドラムの上にブルネレスキによる内径 43m の 8 角ドームを戴冠。創造力と技術の劇的な拡張。

14 パラッツォ・ドウカーレ Palazzo Ducale イタリア、14C-15C、柱廊

過渡の美学:細い円柱、尖塔アーチ、四葉形円窓の繊細な構造が上部の巨大壁面を支持。壮大かつ華麗な後期ゴシック作品。

15 サンタンドレア教会 Basilica di Sant'Andrea

イタリア、1471-1512、レオン・バッティスタ・アルベルティ、正面

理論と実践:リネアメントゥム(構成図式)の成果としてのコンキンニタス(全体調和)。理論の力が残された稀有な建築。

16 パラッツォ・ファルネーゼ Palazzo Farnese イタリア、1530-1546、アントーニオ・ダ・サンガルロ、ミケランジェロ、外壁

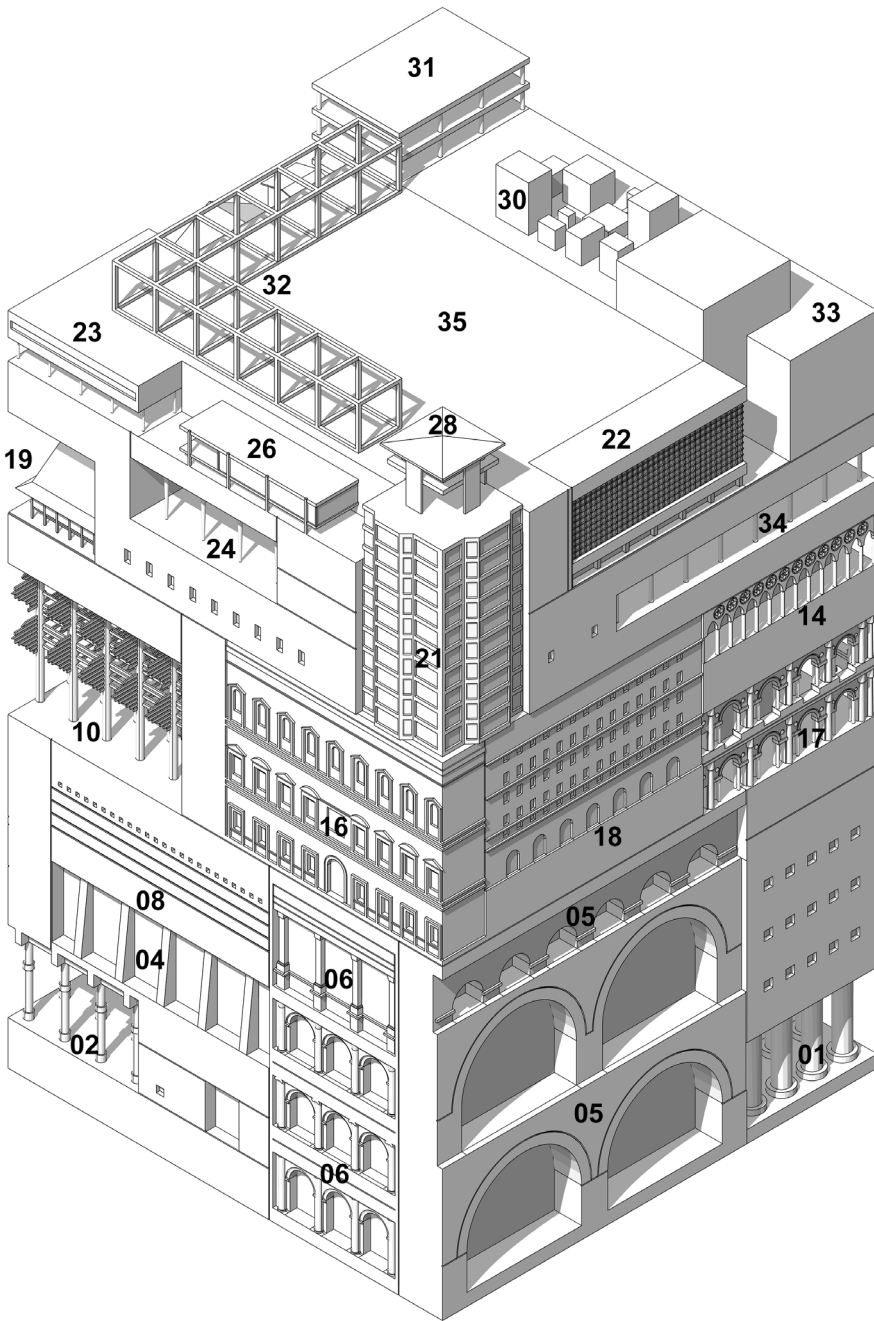
窓の建築:構造柱を外壁に露出しないスタッコ仕上の邸宅建築。窓まわりに柱梁やペディメントなどの造形要素を集中。

17 バシリカ Basilica Palladiana

イタリア、1549-1614、アンドレア・パラーディオ、柱廊

部分の対称性:既存の公共施設をセルリアーナ(アーチ+柱)の柱廊で包囲。寸法の不整合を部分の対称性によって吸収。

18 エル・エスコリアル Monasterio de El Escorial スペイン、1582、ファン・パウティスタ・デ・トレド他



巨大と簡明:206m×209m の規模をもつ廟・教会堂・修道院・宮殿の複合体。大きな花崗岩を積んだ外観は平坦で簡素。

19 桂離宮 Katsura Imperial Villa 日本、1615-1658、八条宮智仁親王、八条宮智忠親王、書院(新御殿)

先行するモダン:モダニズム建築に先行する明晰な構成。軒高の微調整や明障子の導入などの繊細な環境対応。

20 サント・ジュヌヴィエーヴ図書館 Bibliothèque Sainte-Geneviève、フランス、1843-1850、アンリ・ラブルースト、閲覧室

内部からの革新:外部は古典主義的な組石造のファサード。内部は細い鉄柱と梁により新機軸の閲覧空間を実現。

21 リライアンス・ビル Reliance Building アメリカ、1890-1895、ジョン・ルート、チャールズ・アトウッド、ベイウインドウ

出窓の輪郭:シカゴ大火後の初期のスカイ

スクレーパー。テラコッタとガラスの出窓(ベイウインドウ)で外壁を構成。

22 デッサウのパウハウス Bauhaus Dessau ドイツ、1925、ヴァルター・グロピウス、カーテンウォール

透明な皮膜:層間を覆うガラスのカーテンウォール。階ごとの床の分節に左右されない透明な連続皮膜を実現。

23 サヴォア邸 Villa Savoye フランス、1931、ル・コルビュジェ、ピロティ他

柱と壁の分離:柱主体の構造で壁の荷重負担を解放。ピロティ、屋上庭園、自由な平面、横長連続窓、自由な立面、を体現。

24 ジョンソン・ワックス本社 Johnson Wax HQ アメリカ、1939、フランク・ロイド・ライト、事務室

森中の様相:下部が細く頂部が大きな蓮葉型の柱が林立する事務室。古典的な高揚感とは別種の森のような落ち着きを獲得。

25 前川國男自邸 Kunio Maekawa House

日本、1942、前川國男

屋根の用法:外部は山型屋根の民家風ながら内部はモダンなキューブ空間。屋根は異質な要素を統合する建築装置。

26 ファンズワース邸 Farnsworth House アメリカ、1951、ルードウィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ

空間の原型:ガラスで囲われた初期のユニバーサル・スペース。屋根と床のスラブに H 型鋼を外側から溶接した純粋な構成。

27 増沢洵自邸 Makoto Masuzawa House 日本、1952、増沢洵

極小の大きさ:戦後の建築制限の時期につくられた建築家の自邸。極小の空間に創意を注入した生活最小限の原型的住宅。

28 スカイハウス Sky House 日本、1958、菊竹清訓

高床の展開:生活空間を空中に持ち上げた高床式のオープン住居。高床の下部は取り替え可能な増築領域。

29 ガララテーゼの集合住宅 Gallaratese Housings、イタリア、1969-1974、アルド・ロッシ、カルロ・アイモニーノ、列柱

心象の風景:都市に蓄積される過去(=集合的記憶)をモニュメントを通して活用。建築家の心象風景を再現したピロティ。

30 森山邸 Moriyama House 日本、2005、西沢立衛

分散と連携:空間がバラバラに分散しながら多様な相互関係をもって連携。ネットワーク型の空間哲学の萌芽。

31 フロア(新規) Floors (new)

均質の転換:均質な空間だけではなく、差異や特異点が遍在する空間に。

32 フレーム(新規) Frames (new)

骨格と内表:同じインフィルの更新ではなく、スケルトンの活用方法自体を刷新。

33 ポリウム(新規) Volumes (new)

規模の自在:極小から巨大まで、スケールによってポリウムを自在に分節/結合。

34 パッセージ(新規) Passages (new)

動線の拡張:単なる移動経路ではない、場所性が連鎖する動線体に。

35 エクステリア(新規) Exterior space (new)

可能性の源泉:都市の中で別々に眠っている共有可能な要素を外空間に引きだす。

建築の記憶

Memories of Architecture

建築博物館第 13 回「空間のアーキテクチャ —建築の記憶を環境の創造につなぐ」、

東京大学総合研究博物館、2017 年 6 月。構成デザイン: 松本文夫

3D データ作成協力: 徐佳凝

3D プリント協力: 八十島プロシード株式会社

Designed by Fumio Matsumoto, the University Museum, the University of Tokyo. June 2017